瀬戸内海東部域における回遊性魚類の資源生態調査（抄録）

石田陽司・渡辺健一

本州四国連絡架橋が瀬戸内海東部域のサワラ漁業に与える影響を評価する基礎資料を得るため,徳島県沿岸におけるサワラの漁業実態および資源生態を明らかにすることを目的として,春期に流し網の操業を行う北灘漁協（播磨灘）および秋期に立縄・釣りの操業を行う橘町・椿泊漁協（紀伊水道）で,漁獲状況・操業実態・体長組成・生物測定の各調査を行った.

平成4年の漁獲量は播磨灘・紀伊水道ともに平成3年を下回り,不漁であった.北灘漁協粟田支所（播磨灘春漁）の漁獲量は31,787kgで,平成3年の70%,昭和62年～平成3年の平均の88%となり,特に6月の漁獲が極端に少なかった.橘町漁協（紀伊水道秋漁）では9,665kgで平成3年の89%となり,昭和62年以降では平成元年に次ぐ低水準となった.

操業実態を把握するため標本船日誌調査を行った.播磨灘春漁は,4 月下旬から漁期が始まり,ピークとなった5月中下旬にかけて,漁場が広がるとともに単位努力当たり漁獲尾数も2尾／100m・hrを越える漁区も多く出現したが,6月にはいると,漁場は狭くなり,単位努力当たり漁獲尾数も全ての海区で1尾／100m・hr未満となった.紀伊水道秋漁については,単位努力当たり漁獲尾数が20尾／隻・日を越えた漁区は全く無く,大部分が10尾／隻・日未満となった.

播磨灘春漁においては,平成3年発生群である満1才魚の割合が少なかった.この結果は平成3年紀伊水道秋漁において当歳魚の割合が少なかった事実と一致する.紀伊水道秋漁においては,当歳魚の割合が平成3年同様少なかった.

生物測定結果から得られた体長－体重関係は以下のごとくであった.

・雌　5～6月　：

$W=5.0174\times10^{-5}\times L^{2.70689}$

11～12月　：

$W=3.3465\times10^{-5}\times L^{2.75621}$

・雄　5～6月　：

$W=5.173\times10^{-6}\times L^{3.04201}$

11～12月　：

$W=2.0596\times10^{-5}\times L^{2.83668}$

ただし

W：体重（g）：L：尾叉長（mm）：a,b は定数

また,生殖腺熟度指数からみると,平成 4 年の産卵盛期は 6 月上旬までにあったと考えられた.

なお詳細については,本州四国連絡架橋漁業影響調査報告書を参照されたい.